平成29年度第1回静岡市教員育成協議会　会議記録

1　日　時　　平成29年5月29日（月）　14:00～16:30
2　場　所　　静岡市役所清水庁舎　第一会議室
3　出席者

大学	静岡大学教職大学院教授	武井　敦史
	常葉大学教職大学院教授	安藤　雅之
小中学校	新通小学校長	武田　篤
	大谷小学校長	石川　正巳
	大川小中学校長	岡島　均
	清水第四中学校長	高橋　靖
教育委員	教育長（会長・議長）	池谷　眞樹
事務局	教育統括監	望月　敬剛
	教育局次長	髙井　絢
	教職員課長	寺部　晃
	学校教育課長	川島　広己
	特別支援教育担当課長兼特別支援教育センター所長	鈴木　崇正
	参与兼教育センター所長	瀧浪　泰
市長部局	市長	田辺　信宏※欠席
	こども未来局次長	深澤　俊昭
	こども園課長	青野　志能生

4　協議内容

論点１　指標の目的・用途

【自身の成長の指針】
・この指標の最大の目的は自分が成長するための指針とすること。基礎期は一人前の先生になるまでの時期である。課題となるのが充実期以降。自分の特色や持ち味を生かした成長計画を立てていかなければいけない。
【指標の点検・評価】
・指標を作る以上は、点検する場を明確にしなければ。例えば研修実施時に指標の確認をするなど。指標と研修を合わせてPDCAを行うことが必要。
・管理職が職員の育成の機会において、この指標を使って指導や助言をしていくような使われかたをしないと機能しない。
【大学の教員養成への要望・期待】
・ここに書かれている内容であれば大学としてまったく問題ないが、静岡市用のカリキュラムのみを作るわけではない。任命権者の中で整理し統合的なカリキュラムで対応するようにしていきたい。
・国からも「高度職業人」が示されている。日本の教員としての最低限の力をつけることを意識している。着任時に教員としてやっていけることを大学教員として意識している。ただ、免許を取るだけの学生もおり、教員養成のコアカリキュラム的な議論も行われているので、その議論の経緯も見ながら進めたい。
・人権意識、人間関係調整力を育てていただけるとありがたい。

視点２　指標の種類（保育教諭、小中教諭、高校教諭、栄養教諭、養護教諭、教頭、園長、校長）

【校長の指標】
・管理職は選ばれてなっているもので、指標を新たに作らなくてもいいという反面、ある程度の基準のようなものがあってもいい。このあたりは議論の余地がある。

【教頭の指標】
・教頭については、別のものを作らなくても教諭の指標の中に留意事項として作るのもよいのでは。
・深化期の文言に管理職的なものも含まれているので、教頭については深化期の中で特出しをすることで代えることができるのでは。
・教頭も含めて管理職をどうとらえるか。深化期―ベテランの教員のところをどう整理するかが大切だ。

視点３　ステージの区切り、指標項目

【充実期・深化期の区切り】
・充実期と深化期をどう考えるか。この決定的な違いは管理職の要素がはいっているか否か。深化期はキャリアの分岐点。年齢ではなく、経験年数で書くやり方もあるがもう少し緩やかに、ぼやかした形で書くことも考えたい。
・基礎期は「中堅研まで」でいいのでは。充実期、深化期について年代等の但し書きはいらないのでは。
・その指標をどう使うか。先生方が何をもって「充実期」「深化期」と自身で判断するか。
・職能に即したステージ作りを考えていってもいいのでは。年齢については違和感があった。

【基礎期】
・校長先生に聞くと３年目までは目をかけていく時期。それ以降は自身で伸びていく時期。細かく区切っていくのがいいかということもある。基礎期は大きくくくっていいとは思う。指標としては 10 年くぎりでいいが、中身はひとくくりとしないほうがよい。
・卒業生に聞くと、区切りは３，５年あたり。基礎期は２つに分けられるという感じを受ける。
・人事異動で、10 年３校というものがある。10 年で大くくりして、校長が育成の思いを持つ方がいい。
・中山間地の学校で若い先生が多い。中山間地の２校目で大きく成長する先生方を目の当たりにすることがある。
【資質】
・横浜市の指標は細かく書かれている。静岡市の指標も必要な要素は入っているが、わかりやすさは横浜市の方があるかもしれない。横軸（資質）について、項目を整理してはどうか。新学習指導要領を踏まえるなど、授業づくりをていねいに分けるなどしてはどうか。
・「課題対応」についてどんな課題に対応するか、授業の欄も課題対応といえる。ネーミングの問題。
・縦軸は資質であれば、〇〇力の方がわかりやすいかもしれない。授業力、生徒指導力　等
・指標項目について、特別支援に対する知識が必要。付記として付けてもいいのでは。

論点４　静岡市らしさ

・ゴシック体のところ、今、この時期にやらないと「静岡市らしさ」が受け継がれていかない。「生徒指導が機能する授業」等、静岡市で大事にされてきたことを大事にする。
・「道徳を大事に」「学習課題と学習問題」等、一つ一つキーワードとして入れ込んでいくと大変になるので、象徴的なものを入れることで、静岡らしさが出る。
・静岡市らしさは、３，５年でできるものではない、あまりマニアックにするとやれる人にしかできないものになってしまう。
・書き方に違和感がある。静岡らしさについてそれぞれの項目に入れ込むのという方法もある。あと、語尾が「付けている」「している」となっているが、着任時は「している」でいいが、他は「する」「行う」ではないか。

その他

・どう使われていくか、指標に対応した研修をしていく。大学と教委が養成だけでなく研修について連携をとっていかなければ。任命権者と大学がどうリンクするか、すぐに修正するものではないが、長期的に考えていきたい。